

【 新入会員紹介 】

柿沼 武則 (平成21年4月入会) 太田市宝町



ご無沙汰しております。
 10年ぶりに馬電には「菱の実」会で戻ってくるようになりました。
 宜しくお願い致します。
 しばらくの間は仕事を続けますが、同時に下記アイテムに付き、
 今まで以上に時間を割いていきたいと思っております。

- ①国内外のゆかりの地を訪れる旅。過去の記憶を再確認。
- ②今まで撮りためた写真やビデオのデジタル化&永久保存版化。
- ③BS韓国ドラマを通じてのハンゲルの勉強。
- ④一年中花いっぱい、ハーブいっぱいのガーデニング。
- ⑤健康維持のための水泳&ウォーキング。

なお、写真は昨年5月、会社のゴールドプランでシドニーに行った時のものです。

【 会員投稿 】 謎のインカ帝国 : ペルー旅行記 大槻伸次

酸素がこんなに有り難いとは……

平成20年2月20日(水)から2月29日(金)までの10日間、南米のペルーに行ってきました。ペルーといえば「謎の空中都市マチュピチュ」。今回の旅はそのマチュピチュをメインとして、首都リマ、謎のナスカ地上絵、インカ帝国の首都クスコ、汽船が航行する湖で世界最高地点に位置するプーノのチチカカ湖、スペインのアンダルシア地方の文化を色濃く残す町アレキパを巡る旅でした。

<1日目>

成田を発ち、米国アトランタを経由しペルーの首都リマへ。アトランタまで約12時間20分(帰りはジェット気流の関係で14時間30分)。アトランタからリマまでが6時間36分。乗り継ぎ時間を入れると凡そ22時間余の空の旅でした。地球儀を見てみたら日本の裏側、隣国は日本からの移民で馴染み深いブラジルです。

米国では9.11事件以降、乗り継ぎ客も全て、両手の人差し指の指紋押捺、眼球撮影などの入出国審査の大幅強化、さらに手荷物検査の液体持ち込みは制限され、靴まで脱いでX線検査を行うという徹底ぶりです。

リマに到着したのは深夜、市内のホテル着は翌日でした。日本とペルーの時差はマイナス14時間、当然ながらこの時差にも悩まされました。

ペルーは南半球にあるため季節は夏、日本の6月頃の気候です。地図上では熱帯圏ですが、世界の気候の80%があるといわれ、地域によって気候が全く異なる。

<2日目>

ペルーでの最初の観光はクスコへ飛行機で移動し、市内観光の予定でしたが突然フライト中止となる。というのは搭乗直前に、クスコのベラスコ・アステテ空港が農民デモにより閉鎖されたためです。そこで、この日のクスコ行きは断念する。

急遽旅程が組み替えられ、本日が7日目の予定の、リマ市内観光と地上絵のナスカへの移動となる。明日が、8日目の予定だったセスナ機によるナスカ地上絵遊覧とリマ帰着に変更になる。

ところが思いも抛らぬハプニングに、時間を無駄してしまったのでリマ市内観光は「黄金博物館」のみとなってしまった。

リマは770万人の大都市。リマのある太平洋に面する海岸沿いはコスタと呼ばれる海岸砂漠地域で、年間を通してほとんど雨が降らないそうです。街並みはスペイン風で、市中心部には広場や立派な教会が建てられている。

今月の四字熟語
・
・
・「虚心坦懐」(きよしんたんかい)

心にわだかまりをもたず、素直でさっぱりとした気持ち。平静な心境。

「虚心」は無心。「坦」は平ら。

今月のことわざ・【腹も身の内】(はらもみのうち) おなかも身(からだ)の一部なのだから、むちやな飲み食いはしないで大切にしよう。

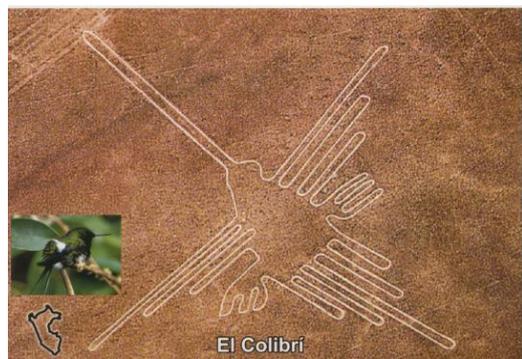
黄金博物館へは、街の中心部は混雑するので郊外を通って行くと、丘の斜面はバラックがビッシリと建っている。「プエブロホーヴェン」といわれ、不法侵入で住み着いてしまった人達の住宅です。アンデスから仕事を求めて、大都市リマに来て仕事も無く、住み着いてしまったという。年間降雨量が50ミリのリマだから可能なのだろう。

昼食後、南北アメリカ縦断道路(パンアメリカンハイウェイ)を南下し地上絵のナスカへ。砂漠の中を、約450キロ7時間の移動でした。

黄金博物館へは、街の中心部は混雑するので郊外を通って行くと、丘の斜面はバラックがビッシリと建っている。「プエブロホーヴェン」といわれ、不法侵入で住み着いてしまった人達の住宅です。アンデスから仕事を求めて、大都市リマに来て仕事も無く、住み着いてしまったという。年間降雨量が50ミリのリマだから可能なのだろう。昼食後、南北アメリカ縦断道路(パンアメリカンハイウェイ)を南下し地上絵のナスカへ。砂漠の中を、約450キロ7時間の移動でした。

<3日目>

快晴(年間通して雨は降らない)。早起きして太陽が上がる前の涼しい時間帯にナスカの地上絵を空から見学です。セスナ機は、砂漠の中の小さな飛行場を離陸し、砂漠を眼下に望みながら、数分で地上絵の地点に到着です。左右の座席に座っている人のために一つの絵の上空を8の字に旋回して見せてくれます。そのとき機体を45度位傾かせ右に傾いたら次は左という具合。これを主要な絵10箇所程度繰り返す。



【写真は、地上絵の蜂鳥】

地上絵は、誰がどのようにして、何のために描いたのかについて諸説あるが、一番有力は暦と雨乞いの儀式説という。

謎の地上絵に酔いしれていると、あっという間に約30分の遊覧飛行が終る。

セスナ機に搭乗前する前、ジェットコースターに乗ったみたいで酔っ払うといわれたが幸いその気配は無かった。多分、早朝のフライトだったので気温が涼しかったのが幸いしたようだ。

昼食後、リマへの帰途ミラドル(展望台)に立ち寄り、もう一度直近から地上絵を確認した。

< つづく >

第55回春季グラウンドゴルフ大会



順位	氏名	HD	スコア	1打	2打
優勝	高橋勝美	+2	61	2	7
準優勝	長嶺美恵子		65	0	10
3位	滝 亀三郎		66	0	11
4位	井上征光		66	0	9
5位	根岸利喜蔵		66	0	8
6位	茂木さと枝		67	1	7
7位	長嶺 元		67	0	9
8位	本島シゲ乃	+1	69	0	11
9位	茂木 鶴次	+3	70	0	9
10位	田部井秀夫	+2	70	0	8

平成21年度最初の春季グラウンドゴルフ大会が 5月18日(月)利根グラウンドゴルフ場で18人の参加で行われました。今回は、ハンディー制で、赤城コース、榛名コース、赤城コースの24ホールで熱戦がくりひろげられました。結果は、高橋勝美さんが優勝カップを手に入れました。

尚、次回の第56回夏季大会は、1泊2日で8月24日(月)～25日(火)に榛名吾妻荘で開催しますので、皆様の参加をお待ちしております。(会費は 11,000円、参加申込み受付中)

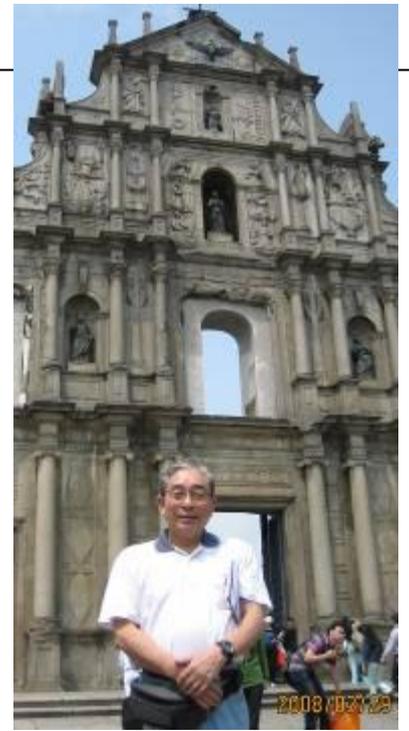
【 新入会員紹介 】

葛西 松範 (平成21年3月退職) 太田市台之郷町

この度「菱の実会」に入会させていただきました。よろしくお願ひいたします。

平成11年、ホーム機器に出向転籍。平成16年に定年、平成17年8月～平成21年3月(3年8ヶ月間)に三菱電機静岡製作所の嘱託、MEE出向→中国広州海菱機電に出向。中国からの金型調達、海菱機電の技術者育成と取引先金型メーカーの指導を行う。平成21年3月に退職し現在に至っております。この47年間に、楽しかったこと、苦しかった事など貴重な体験をすることが出来ました。定年後の海外業務も思い出です。この間、他場所を含む、多くの方々からご指導ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

今後は、好きな釣り、スポーツ等をして、ゆっくり人生を過ごしたいと考えております。



【 会員投稿 】 謎のインカ帝国 : ペルー旅行記 (2) 大槻伸次

<4日目>リマに1泊後、再度クスコ行きのフライトに挑戦。今度は農民ストも無く無事移動することが出来た。クスコはインカ帝国時代の首都。ケチュア語で「ヘソ」を意味するという。彼らは太陽神を崇拝し、クスコは世界の中心と考えていた。標高3,399mに位置するので酸素は地表の60%だそうです。因みに富士山が3,776m。標高2,500mを越えると高山病が発症し易いそうです。ここからが薄い酸素との闘いです。

クスコの空港に降りたった途端、気のせいかなんとなく息苦しさを感じた。添乗員の話では、体内に酸素が残っているために3~4時間は大丈夫だと言われたが、約1時間後クスコ市内観光でアルマス広場に到着早々のこと、ツアー仲間が高山病を発症し救急車で入院した。

アルマス広場(クスコ大聖堂前)から徒歩で、クスコ市内および周辺の遺跡を見学。インカ文明では、マチュピチュでも見られるように、剃刀の歯一枚も通さない精密な石組みの技術は有名ですが「12角の石」は特に有名です。このクスコには「太陽の神殿」現在のサントドミンゴ教会をはじめインカ時代の神殿が幾つかあるが、征服者のスペイン人は、神殿の大量の黄金を持ち去り、その後上部を壊し残った土台の上に新たにキリスト教会を建設した。ところが何回かの大きな地震で、後から建てた上の部分は壊れてもインカ時代の土台は微動だにしなかったという。

市内散策後、バスにて市街より更に標高の高いサクサイマンの要塞遺跡や、タンボマチャイ遺跡を訪ねたところは軽い高山病の症状がでて、なんともすっきりしない気分になった。目眩こそなかったが頭痛や胃の膨満感を感じた。よく聞く不定愁訴の症状そのもので、訴えている人の気持ちが身をもって理解できた。明後日は4,300mのラ・ラヤ峠を越えて標高3,800mチチカカ湖に向かいます。もっと酸素が薄くなる?・・・ということはもっと体はきつくなると考えると益々不安になる。

昼食後は、予定されたスケジュールはなかったので、今夕のフォルクローレショー(ディナー)に備え慎重を期し、ホテルにチェックインしてシエスタを決め込んだ。



【写真は、クスコ市街を見下ろす丘でリャマを連れたインカの娘と】

菱の実会ホームページ情報

<http://www18.ocn.ne.jp/~hishimig/>

ぐんま菱の実会ホームページに、「今月のカラオケ」コーナーを新設しました。巷のカラオケスナックやカラオケボックスと同じ映像・音源です。別にボーカル付もあるので曲を覚えるのに大変便利です。レポートリーアップにお役立て下さい。今月の曲は、すぎもとまさと「吾亦紅」です。

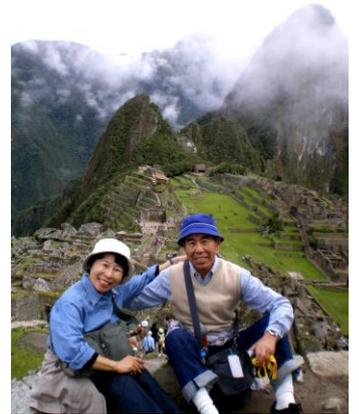
【 会員投稿 】 謎のインカ帝国 : ペルー旅行記 (3) 大槻伸次

<5 日目> 宿泊地のクスコから、今回の旅のハイライトである空中都市マチュピチュへ。バスとペルーレール鉄道を乗り継いで行く予定ですが、乗車駅であるオリヤンタイタンボ駅へ通じる道路が、農民デモにより閉鎖されているとの情報があるため、安全を期して「寝起きを襲う作戦」で行くと告げられる。

要するに農民が寝ているうちに出発し、バリケードを突破する作戦である。そこで、深夜 2 時半に叩き起され、暗闇のアンデス山中を 2 台の小型バスに分乗し、オリヤンタイタンボ駅へ向った。幸いバリケードは突破することが出来た。

【写真はマチュピチュ遺跡をバックに】

マチュピチュへは、ここオリヤンタイタンボ駅から鉄道で 1 時間半程度。列車は「ビストロ・ドーム号」という素晴らしい展望車。アンデス山中の聖なる谷を流れるウルバンバ川沿いを、ゆっくり(時速 30~40 キロ)としたスピードで、景色とブランチを楽しみながらの素晴らしい鉄道の旅でした。登山口のアグアス・カリエンテス駅から、マチュピチュへはマイクロバスに乗り換え、ハイラム・ビンガム・ロード(約 30 分・米国の歴史学者の名前から)と呼ばれる日光いろは坂のような道路を駆け上がる。



マチュピチュの入り口のゲートからしばし上り坂。マチュピチュ(ケチュア語で老いた山)は 2,400m ですから息苦しさはない。上りきったところ、ポスターやテレビでおなじみの空中都市マチュピチュの全貌が目の前に展開するのです。

石の街並みの後方には、守護神のようにそびえるワイナピチュ(ケチュア語で若い山の意)。そのなんとも神秘的な眺望に接していると、自分がここにいる不思議さを思ってしまう。妻は、ここでハーモニカを吹きたいというので応援する。居合わせた人たちの拍手に自分ごとのように感激。何故、この場所にこのような都市を建設したのか諸説あるが、「インカ帝国の 9 代皇帝パチャクティの離宮」として利用されたというのが一番有力のようです。またここマチュピチュの断崖絶壁に作られた段々畑は、下流のウルバンバ川の肥沃な土を運びあげたとのこと。棚畑の下には聖なる谷を流れるウルバンバ川が見下ろせます。なぜして、どうしてこんな場所にこれだけの街を作ったのだろうか？ やっぱり謎ですねー。

インカ帝国の全盛期は、広大な領土と石組みの技術を始めとする素晴らしい文明を持った大帝国でしたが、残念ながらインカ文明は文字を持っていなかったため、なんの文献も残っていないのだそうです。約 5 時間の滞在、マチュピチュの幻想的な世界に別れをつけ、再度ビストロ・ドーム号に乗りクスコへ。クスコへは 2,400 m から 3,400m への上り坂です。列車内では、食事と車内販売のファッションショーを楽しみながら 1 時間半余りでオリヤンタイタンボ駅へ。バスに乗り換え 1 時間半、クスコ市街の夜景を見ながらホテルへ到着。

「おもしろ国語」

194 春日井市 岩田 尚之

いつだったか、「ほあけほのちいあ」なる輩が「おもしろ算数」なるものを投稿していた。今回は、小生も向こうをはって「おもしろ国語」をご紹介させていただく。

「子」の字を 18 並べた次の文章？ これを何と読みますか。読めますか。

「子子子子 子子子子 子子子子子 子子子子子」

ヒントは、「子」を、「こ、ず、の、ね、み」の 5 とおりに読み分けます。

正解は、群馬菱の実だより にこれが掲載された次月号でお知らせします。

(それを待って編集委員さんへ投稿します。)

正解者には、当局より、世界一周旅行券が用意されるかも知れません。がんばって挑戦してください。多分 正解されるのは、文学に蘊蓄ありよく会員投稿されるあのお方お一人かも知れません。

訃報



銀山 嘉夫 さん (太田市小角田町 享年 80 歳)

8月1日ご逝去されました。ご冥福をお祈りすると共に、お知らせします。

【 新入会員紹介 】

丸山 邦夫さん (平成21年9月入会) 太田市泉町

お久しぶりです。退社3年目となりました。現在は夫婦と犬・猫の2人2匹でのんびりと生活しています。

趣味というか、今チャレンジしているのは

- ① 20代半ばから遠ざかっていたテニスを40年振りに再開。体が動かず、こんなはずはないと思い悩む毎日です
- ② 毎日、一時間ほどのジョギング。メタボ対策で始めたのですが、体重10Kg減に成功。年間2、500Km 走破を目標に継続中です
- ③ JR 全線完乗。現役中は職務柄、全国各地へ行く機会が多かったことと旅が好きなことなど、現在12、000Kmを走破しました。JRの「大人の休日」や「青春18きっぷ」を活用しながら全線完乗へ向けて時刻表と首っ引きで楽しんでいます。

皆さんとお会いできる日を楽しみにしています



<社内経歴>

- 1962年 4月 入社(群馬製作所総務課)
- 1981年 2月 本社 人事部
- 1985年 1月 群馬製作所総務課
- 1987年 2月 出向(三菱電機ホーム機器総務部)
- 1997年 3月 本社冷熱システム事業部
- 2004年 4月 三菱電機冷熱プラント株式会社
- 2006年 3月 退職～現在



先日菱の実会よりお祝を頂き有難うございました。近況としては、毎日のんびりとテレビを見るなどして過しております。MLB大リーグ放送やプロ野球ナイター等主にスポーツを中心とした番組を見るのが楽しみです。日々何事もなく過せる事に感謝しながら毎日を送っております。



斉藤 定雄



戸谷 尚さんからはお礼の言葉と写真を頂きました

謎のインカ帝国 : ペルー旅行記 (4)

大槻伸次

< 6日目 > 今日はチチカカ湖のあるプーノへ。

【写真は、ラ・ラヤ峠にて】

アンデス山中をバスにて、約330キロ6時間の移動の旅です。途中休憩をとりながら、4,313mのラ・ラヤ峠を越えました。昨日からの軽い高山病の症状は改善せず、長距離の移動でどうなってしまうのか不安を抱えながらのバス旅でした。ところがアンデス山中のラ・ラヤ峠に着いてみたら、確かに息苦しさはあるものの難なく遣り過ごすことが出来た。午後は、すごい夕立にも遭遇し、インカ文明以前のシルスタニの遺跡(やはり石の文明。標高3,800m)に到達したのは、午後4時頃。頭痛はするし、冷たい強風(お土産に買ったリヤマ毛の帽子と襟巻きセーターで武装)と1キロ程度の登りの道は辛かったが、恐らく2度と来られないだろうからと多少の無理を承知で見学した。



(続く : この旅行記は、10日間のシリーズです)

【 会員投稿 】 謎のインカ帝国 : ペルー旅行記

大槻伸次

<7日目>

【写真は、浮島のウロス島にて民族衣装を借りて】

朝一番、汽船に乗ってチチカカ湖に浮かぶウロス島へ。チチカカ湖は汽船が航行する湖としては世界最高地点(3,800m)です。その大きさはなんと琵琶湖の12倍あり南半分はボリビア領です。このウロス島は浮き島で、地面はないのです。…というのは湖に生えている「トラ」という葦の一種の根塊を50センチ平方のブロック状に切断し、そのブロックを平面に数百個紐で繋ぎ合わせ、その上に3メートルほどの葦を積み重ねた「浮島」なのです。おおよその寿命が25年という。島は流されないように杭で止めてある。



そのウロス島に上陸?そこに同じトラで作った家屋で、島の人達が生活している。インカの時代から生活は変わらないそうです。島には電気は引かれてないが、太陽光発電が導入されている。この太陽光発電装置は、フジモリ元大統領からの贈り物だそうです。最初に訪れた島から次の島へ渡るについて、トラで作られた二階建ての手漕ぎ舟(34名乗ったが大丈夫)に乗った。料金は1ドルでした。

夫婦でオールを漕いでいたが、夫より妻のほうが馬力があるようだ。運賃の徴収も妻が仕切っていた。子ども達は小学校まで島で暮らし、中高生は陸に上がり勉強するそうです。島では15歳くらいで結婚するそうですが、平均寿命は50歳代だという。

インカの人々は、我々と同じモンゴル系とか。そこにスペイン人フランシスコ・ピサロがやってきて広大なインカ帝国は脆くも破れ去りスペインの支配下となる。そこで、ペルーにはインカとスペイン系の人達が混血しメスティソと呼ばれる人達が40%を占める。因みにインディヘナ(先住民)47%、ヨーロッパ系12%、その他1%。日系人は、ブラジルに次いで多いそうですが、リマに多く居住しているという。

昼食後、近くのフリアカ空港からスター・ペルー機で次の観光先のアレキパへ。飛行機に搭乗後暫くすると、体がなんとなく楽になった。総身に酸素が回ってきた感じです。1時間15分のフライト後アレキパに着いたら嘘のようにあの高山病の症状が消えていた。アレキパは標高2,335mで高山病は全く心配なし。当たり前のことですが酸素は何と有り難いものやら……。 <つづく>



この度は喜寿の祝い戴き感謝申し上げます。今後は無理せず、小さなボランティアに努めます。 2月吉日 権田 晴夫



磯 實さん(右)からはお礼の言葉と写真を頂きました。

平成22年度 菱の実会総会の予告

平成22年度の総会は、4月20日(火)開催の予定で、準備を進めております。詳細は、次号でご案内いたしますので、あらかじめご予約くださるようお願いいたします。

なお、昨年と同じように、会場の一角に『会員趣味の作品展』を展示する予定ですのでご準備下さい。この作品展は、総会前一週間程度展示して、現役の皆さんにも見てもらうことになっております。事務局又は幹事までご連絡をお願いします。

< 8日目 > 昨夜は息苦しさも無く久しぶりに熟睡できた。ペルー滞在の最終日はペルー南部の大都市アレキパ市内観光です。アレキパの別名は、シウダード・ブランカ(白い町)と呼ばれるが、建物が近郊で取れる白い火山岩で造られている為だそうです。特にサン・ラサロ地区は 16 世紀のコロニアルスタイルの街並みでスペインのアンダルシア地方の風景そっくりです。

人口 90 万人で、ペルー第 2 の都市。気候温暖で、住んでみたいと思った町です。近くにペルー富士と呼ばれる富士山そっくりの山が聳えているのには驚いた。ミステー山というそうで標高は富士山より高い。シンメトリカルな円錐形の火山です。

街路樹の「ジャカランダ」は春の花、夏の季節になごり惜しそうに咲いていた。ヤナワラの展望台からのミステー山の眺めは最高。展望台の一角には質素ながらも美しいサン・ファン教会もありました。そして 16 世紀半ばシェナのカターリーナが創設した「カターリーナ女子修道会」へ。修道会は、当時荒くれ者が多かった時代、良家の子女が身を守る為や花嫁修業のために持参金付で入所したそうです。

【写真上はアルマス広場。下はヤナワラの展望台からミステー山】

修道会の最盛期は、500 人の子女が生活をしていましたが、現在は 24 人のシスターがいるそうです。敷地内は町のように、トレド通りとかコルドバ通りとかのストリートの名前がついていた。また、修道会はオードリー・ヘプバーンの「尼僧物語」という作品の舞台となったという。修道会近くのアルマス広場は椰子の木が生い茂り、近郊で採れる白い火山岩で作られた白くて美しい 2 つの尖塔のある大聖堂(カテドラル)と、コロニアル建築の建物が広場の周囲を囲んでいる。

ところがこの地方は地震が多いそうで、前回の地震の際、大聖堂の尖塔が簡単に崩壊したという。日本と同様、ペルーは地震国なのです。晴天のこの日、目の醒めるような緑の多い広場に、多くの市民が繰り出している。思い思いに休日をエンジョイしている様子は、平和な国なんだと感じた。

ペルー最後のランチは、旅行社からペルーのご馳走といわれる「クイ」のプレゼントがある。「クイ」はモルモットのこと。ペルーではお祭りとか結婚式等の、晴の日には必ず食べるという高級料理です。恐る恐る食べてみたが、美味しいとは思えなかったが……。

【写真はクイ】

昼食後は、アレキパ郊外 7 キロの、ロドリゲス・パジョン空港からスター・ペルー機で、1 時間 15 分のフライトでリマへ戻る。夕食は、久しぶりに日本食にありつき、日本茶も梅干も味噌汁もお代わりし正気を取り戻した。

夕食後、予定通りであればこのまま空港へ直行の予定でしたが、ペルー初日のハプニングのため、リマ歴史地区観光が不可能となっていたので、夜間のアルマス広場を車窓より見学。バスは、夜間のアルマス広場をそろそろと 3 度ほど回ってくれ、大統領官邸など見せていただいた。広場の夜の風景をしっかりと頭に叩込みながら空港へ。

< 続く >



【 菱の実会ホームページ掲載 会員投稿 】

祖父江 常雄

1. 名古屋の「金シャチ」について 2. 「祖父江」姓について

上記 2 件の投稿については、紙面の都合上ホームページ掲載とさせて頂きました。ご了承下さるようお願い致します。いずれも大変興味深い内容ですのでぜひご覧下さるようお願い致します。目次だけここに掲載させて頂きます。

1. 名古屋の「金シャチ」について
 - (1) なぞの多いシャチの起源について (2) 天守閣とシャチ (3) 数奇な運命
 - (4) 昭和のシャチ
2. 「祖父江」姓について ・ ・ ・ 珍しい「祖父江」姓のルーツについて調査したもの
 < いずれも、祖父江さんが「古文書同好会」に投稿し掲載されたものです >

シリーズ・同期会

⑥ 三山会 暑気払い連日の猛暑に負けるな！

カンパーイ！と 元気な声が飛び交った。
連日、凄まじい猛暑が押し寄せている中7月22日(木)三山会恒例の暑気払いが開催された。

三山会としての暑気払いはさかのぼること数十回毎年実施しているが今年ほど暑いと感じたことは無いぐらい暑さが身に浸みたように思いました。年齢を理由にはしたくないが……。

春の総会以来3ヶ月後の再会でしたが、会員皆定年後の思い思いの生活が身についたようで一同すこぶる元気で何よりでした。

若かりしころ利根川の屋形船で夕方から川面をすべる涼風を背中に受けて酒を、ビールを酌み交わした我が同期会暑気払いをしみじみと思い出し懐かしくなったりして。

三山会同期会はいつでも、どんな催しでも会えば和気あいあいと時間の経過を忘れてしまうほど仲間同志の話に花を咲かせておりますが、今日も尽きない情景は連日の暑さも何処えやらスッカリと暑気を払ったようでした。 「場所：東陽軒(尾島)にて」 (二宮)



【 会員投稿 】 謎のインカ帝国：ペルー旅行記

大槻 伸次

<9～10日目(最終回)> ペルー出国から米国入国。入国審査にまたもや左右両指の指紋押捺と眼球撮影を求められた。往路と同様の厳重な審査を受け長い空路に耐え、無事日本に入国することが出来た。遠い南米ペルー10日間の旅も万事無事に終了した。

こうしてペルーの旅は終わってしまいましたが、あってあたりまえの酸素がなんと有り難いものなのかを実感させられた旅でした！！ また、広大な領土と高度な文明を有したインカ帝国が、わずか200人にも満たないスペイン人征服者よって、もろくも滅ぼされてしまった事実を知り残念でたまりませんでした。争いを好まず、ほとんど武器らしいものを持たず、スペイン人の銃に対してインカは石投げで抵抗したという。究極は夜戦う習慣がなかったため、あっけなくやられてしまったそうです……。また、ペルーのトイレ事情で驚いたのは、下水道設備がよくないからという理由で、用足し後のペーパーを便器に流さず横にあるゴミ箱に捨てるよういわれたことです。しかし、ウンコのついたペーパーを、なんとしてもゴミ箱に捨てられず、悪いなと思いつつ密かに便器に流してしまった …。

以上で下手な報告を終らせていただきます。(編集の都合で掲載が長期にわたりましたこと お詫びします)

第47回 ゴルフ愛好会コンペ報告



順位	氏名	GRS	NET
優勝	益子 喜雄	94	70.0
準優勝	坂田 修	73	70.6
3位	佐藤 好一	86	71.8
4位	田口 勝也	79	71.8
5位	寒梅 達男	79	71.8
6位	高木 和彦	84	72.0
7位	高木よし子	83	72.2
8位	岡部 勇	80	72.8
9位	川口 博	84	73.2
10位	青野 久之	83	73.4

8月6日(金)に大間々カントリー倶楽部に於いて、第47回菱の実会ゴルフ大会を実施しました。

今回は盛夏の開催で連日猛暑日が続いていたので参加人数が心配されましたが、今回より目崎道夫さんが参加されて合計で32名の方に参加をして頂き盛大に開催されました。当日は前半曇りで暑さもうちばで良かったのですが、後半は太陽が出てきて35度を超える猛暑日となってしまいました。結果はハンデキャップに恵まれた益子さんが優勝しました。

次回の大会は10月12日(火)を予定しています。(上武ゴルフ場)

● 今月の「歌だより」は、「小金沢昇司」を取り上げました。菱の実会ホームページからどうぞ。